

FOOD ACTION NIPPONについて

食料の未来を確かなものにするために

FOOD ACTION NIPPONについて

日本の食料自給率問題とは

食料自給率アップ推進宣言

運動名称、ロゴ・マーク、基本メッセージ

5つのアクション

FOOD ACTION NIPPON推進本部の活動報告

食料自給率年表

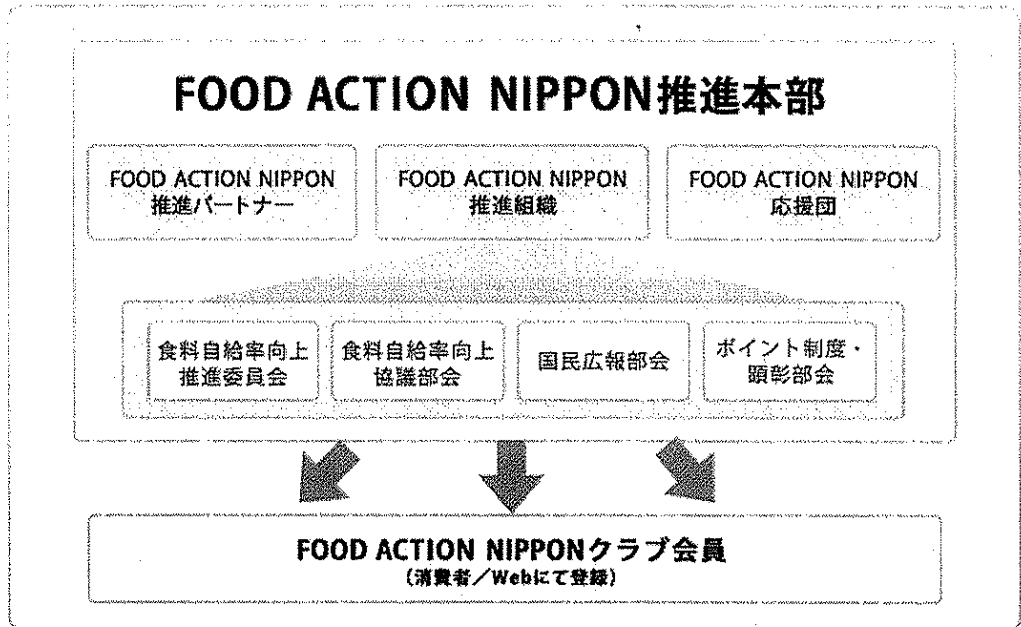
FOOD ACTION NIPPONについて

FOOD ACTION NIPPON推進本部の発足の経緯と体制

日本国内にとどまらず、世界規模で食料問題がますます深刻化する中、国産農産物の消費拡大は食料自給率向上を実現する最も有用な手段であると考えられてきています。そのためには、消費者の啓発と意識改革にとどまらず、「生産」「流通」「消費」のそれぞれの現場で問題意識を認識・共有し、消費者・企業・団体・地方公共団体など、全ての国民が一体となって国産農産物の消費拡大を具体的に推し進めることが重要な課題となっています。

これらの課題の実現を目的として、農林水産省は平成20年度より「食料自給率向上に向けた国民運動推進事業」を立ち上げ、そしてこの度、その基盤となる組織として「FOOD ACTION NIPPON推進本部」を発足いたしました。

組織体制図



FOOD ACTION NIPPON推進組織

国民運動の総合戦略を企画立案する機関。有識者、事業者、企業などから構成される委員会及び3つの部会を立ちあげ、国民運動の活動方針や企業アライアンス(提携)の手法の開発、ポイント制度や認証マークの検討、顕彰事業等の仕様を策定していきます。

FOOD ACTION NIPPON推進パートナー

流通・食品などの企業、旅館・ホテルなどの事業者、大学や地元経済界、自治体などに国民運動の推進パートナーとなっただき、国民運動をより具体化していく役割を担っていただきます。国産農産物消費拡大に向け、業種・業態を問わず、より多くの企業・団体等の参加を要請していきます。

FOOD ACTION NIPPON応援団

国民運動をより一層推進していくため、著名人、芸能人、アスリート等に様々な事業への参画を依頼し、消費者の関心を高めていきます。

日本の食料自給率問題とは

戦後から大きく低下した日本の食料自給率。低い食料自給率から引き起こされる様々な問題について、世界の食料事情を交えてご紹介します。

食料自給率アップ推進宣言

FOOD ACTION NIPPON推進本部は、日本の食料自給率の向上を通じて、日本の食の安全と豊かさを未来の子供たちへ引き継いでいくために、精力的に活動していくことをここに宣言いたします。

運動名称、ロゴ・マーク、基本メッセージ

食料自給率向上に向けた国民運動を推進する為の国民運動名称やロゴ・シンボルマーク、そして、これらに込められたメッセージをご紹介します。

ではんがおいしくなる。Melu-Maga 配信中!

あなたのアクションが、未来へつな갑니다

メルマガお申し込み ▶

FOOD ACTION
NIPPONについて

食料の未来を確かなもの
にするために

FOOD ACTION NIPPON
について

日本の食料自給率問題と
は

食料自給率アップ推進宣
言

運動名称、ロゴ・マーク、
基本メッセージ

5つのアクション

FOOD ACTION NIPPON
推進本部の活動報告

食料自給率年表

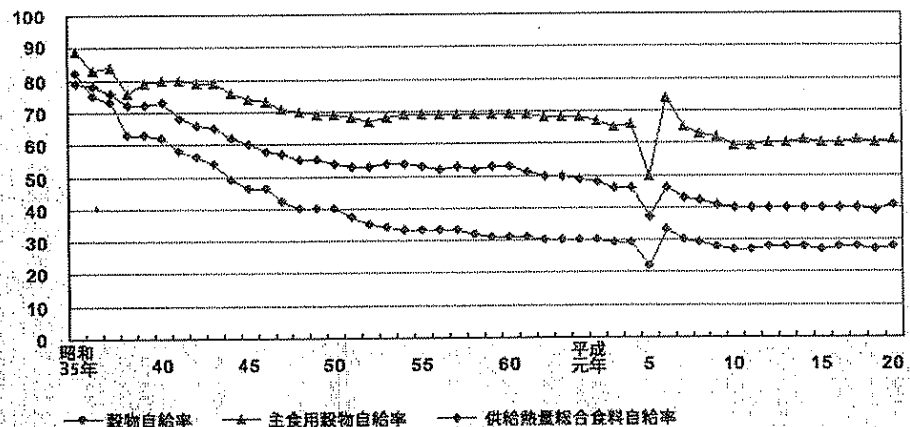
日本の食料自給率問題とは



約60%を海外からの輸入に依存している日本の食料事情

日本の食料自給率は戦後大きく低下の一途を辿り、昭和40年度には73%だった自給率が、平成20年度には41%まで落ち込みました。米や砂糖などを除くほとんどの食料の自給率が昭和40年当時に比べて著しく低下し、その分を輸入に頼っているのが現状です。この数値は、世界の主要先進国の中でも最低水準に値します。これは、私たちの食生活がこの数十年の間に大幅に変化したことが大きな原因の一つであると言われています。以前は米や野菜などの自給可能な食料を中心とした食生活でしたが、年々冷凍・加工食品や脂肪分の多い食品などの摂取量が増えています。そしてそれらの食品は、原料を輸入に頼っている場合が多いのです。しかし、問題なのは冷凍・加工食品ばかりではありません。肉や卵、調味料など一見国産に見えるものでも、実は原料や飼料のほとんどが輸入品である場合が多く、自給率低下の一因となっています。そのため、日本の代表的メニュー「天ぷらそば」も食材の約80%は輸入品、という驚くべき現実があります。

食料自給率の推移



海外からの食料の輸入増加が引き起こす問題

世界的な水資源の消費やCO₂排出量増加

それでは、食料の輸入がそのまま増加すると、どのようなことが起こるのでしょうか。大量の食料を輸入することは、その生産に必要な水資源も間接的に大量消費することになります。それは、世界の貴重な水資源に対して悪影響を及ぼすことになってしまうのです。また、食料輸送に伴うCO₂の排出量増加も懸念されている問題の一つです。食料の輸入に、環境への影響という大きな問題が伴うことは見逃せない事実です。

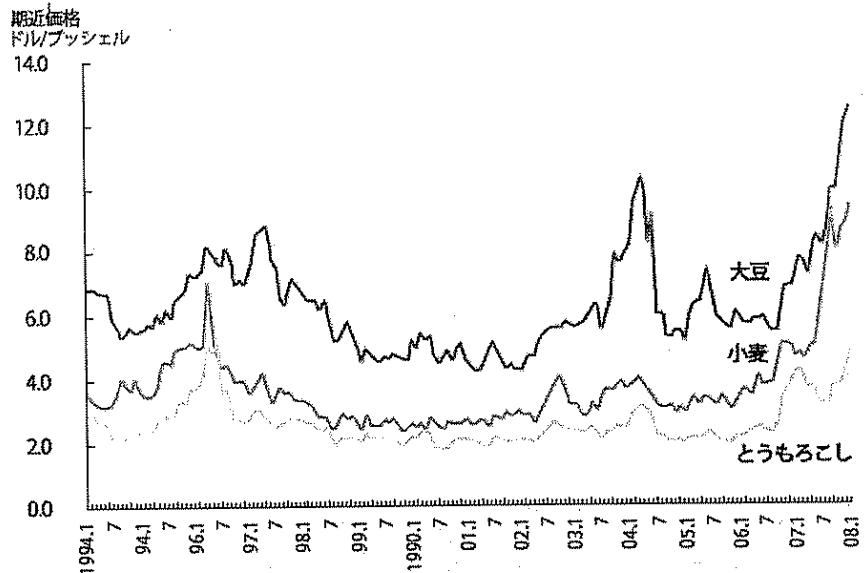
日本の農業や食糧供給基盤の衰退

また、国産農産物の需要が低下すれば、国内の農地面積や生産者数が減少し、農業の有する機能自体が脆弱となり、ひいては日本の食料供給基盤そのものが揺らぎ始めます。日本の輸入食料は特定の少数国に依存しているため、相手国の食料供給力に非常に左右されやすいということも認識しておかなければなりません。

今、世界は食料価格高騰の時代へ

今、世界は類を見ない食料価格高騰の時代を迎えています。これは、世界人口の増加やバイオ燃料の需要増加などによって、食料の需要と供給のバランスが崩れつつあるためです。また、地球温暖化や異常気象頻発の影響で、農産物の生産条件が世界規模で悪化していることも要因となっています。この先、世界の食料事情はさらに逼迫の傾向を強める見通しであると言われています。食料価格高騰などの影響は、私たちの生活にもすでに大きな影を落とし始めています。

ページの先頭に戻る **世界の食料価格の推移図**



資料:ロイターES-時事
注:シカゴ商品取引所における2008年1月までの毎月最終末の期近価格(セツルメント)である。

※ 出典:農林水産省ホームページ/穀物の国際価格の推移
<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/5-2.html>

もしも世界的な食料危機がおきた場合、日本は食糧を輸入できなくなる

もし世界の食料需給が危機に瀕した場合、各国は自国内の供給を優先し、国外への食料輸出を抑制するでしょう。そうなれば、日本は国内生産で食料供給を賄わなければなりません。しかし現在の自給率のままでは、国民に対する安定した食料供給に支障が出る可能性が高いとされています。私たちの今の食生活がこのまま守られる保証は、実はどこにもないのです。

日本の食料の未来の為に、今、私たちがするべきこと

私たちは、日本の食料自給率アップに向けて、今すぐ行動を起こさなければなりません。豊かな国産物を食べ、食べ残しなどによる食品廃棄を抑制することで、日本人の健康と、美しい環境、そして子供たちの未来を守ることにつながります。具体的には、消費と生産の両面から食料を見直していく必要があります。それは、政府や行政、企業ばかりではなく、国民を含めた日本全体が一丸となって取り組むべき課題です。まずは、食料自給率の問題や食の大切さに気づくことから始まります。そして、私たち一人ひとりが考え、行動することで、日本の食料の未来を確かなものとする事ができるのです。

食料の未来を
確かなものにするために

農林水産省 MAFF

農林水産省チャンネルにて、
DVD「食料の未来を豊かにする為に」
配信中！

[詳細はこちら](#)

ごはんがおいしくなる。M&M's Maga 配信中！

あなたのアクションが、未来へつながります

メルマガお申し込み

「わたしのアクション」宣言大募集!!

食料自給率アップにつなげるアイデアをご応募ください。

詳細はこちら

公式サイトトップ FOOD ACTION NIPPONについて 食料自給率アップ推進宣言

FOOD ACTION NIPPONについて

食料の未来を確かなものにするために

FOOD ACTION NIPPONについて

日本の食料自給率問題とは

食料自給率アップ推進宣言

運動名称、ロゴ・マーク、基本メッセージ

5つのアクション

FOOD ACTION NIPPON推進本部の活動報告

食料自給率年表

食料自給率アップ推進宣言

2015年度までに、
 現在41%である食料自給率（カロリーベース）を
 45%まで向上させることで、
 「"おいしいニッポンを"残す、創る」ことを目指します。



新興国の食料需要の増加、バイオ燃料需要の急増、異常気象の影響による農業生産の減少等、食料需給問題が世界規模で深刻化する中、日本の食料自給率は年々下がり続けています。平成20年度の食料自給率は前年度より1%上がった41%でしたが、それでも主要先進国の中では最低水準に値します。

今、私たちの食料の未来は危機に晒されています。現在の低い食料自給率のままでは、世界の食料需給問題がさらに悪化したとき、私たち国民への安定した食料供給に支障が出る可能性が非常に高いと懸念されているのです。そうなれば、私たちの今の食生活は、大きく変化せざるを得ないでしょう。

私たちは、食料を安心しておいしく食べられる社会を守らなければなりません。長い間、美しい自然と大勢の人の手によって育まれてきた日本の豊かな食文化を、子供たちの世代へと引き継がなければなりません。

食料自給率の向上は、そのために達成させなくてはならない課題のひとつです。私たちFOOD ACTION NIPPON推進本部は、平成27年度には日本の食料自給率を45%までアップさせることを目指しています。

食料自給率をアップさせるには、できることからACTIONを始めることが最も大切です。米や野菜を中心としたバランスのよい食生活を心がける、食べ残しを減らす、国産の新鮮な旬の素材を食べるなど、シンプルでおいしいACTIONこそが日本の食料自給率を再びアップさせる原動力となるのです。

FOOD ACTION NIPPON推進本部は、日本の食を次の世代に残し、創るために、食料自給率の向上を目指した「FOOD ACTION NIPPON」という国民運動の推進に全力で取り組んでまいります。日本の食料自給率の向上を通じて、日本の食の安全と豊かさを未来の子供たちへ引き継いでいくために、精力的に活動していくことをここに宣言いたします。

ごはんがおいしくなる、M&M's 配信中!

あなたのアクションが、未来へつな갑니다

メルマガお申し込み

ページの先頭に戻る

FOOD ACTION NIPPONについて

食料の未来を確かなものにするために

FOOD ACTION NIPPONについて

日本の食料自給率問題とは

食料自給率アップ推進宣言

運動名称、ロゴ・マーク、基本メッセージ

5つのアクション

FOOD ACTION NIPPON 推進本部の活動報告

食料自給率年表

運動名称、ロゴ・マーク、基本メッセージ

FOOD ACTION NIPPONの目指すもの

FOOD ACTION NIPPONとは、日本の食を次の世代に残し、創るために、日本の食料自給率の向上を目指した国民運動です。より多くの国産農産物を食べることによって食料自給率の向上を図り、食の安全と豊かさの確かなものとして子供たちの世代へ引き継いでいくことを目指します。

日本国内の食料供給の安全を確保することができれば、それは世界の食料生産拡大へ貢献することにも繋がります。日本産の食物を食料自給率の低い国へ供給する等、食料の循環を積極的に行うことで、世界の食料問題解決への貢献をも目指します。

食料自給率向上に向けた国民運動を推進するために、「FOOD ACTION NIPPON」という運動名称を設定し、国民運動の社会的周知・理解を求めていきます。また、消費者の本運動への具体的な参加を促すためにも、推進パートナーである企業・団体の皆さまと一緒に、国民運動名称ロゴタイプ・シンボルマークを様々な場面で活用し、国産農産物の拡充に向けた国民運動を推進していきます。

運動名称

安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動
FOOD ACTION NIPPON

国民運動名称ロゴタイプ



国民運動シンボルマーク



安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動
FOOD ACTION NIPPON

ニッポンのシンボルであり、かつ国民運動の旗印としてふさわしい「日の丸」を、ニッポンの食の未来のモチーフとし、それを大切に受け継いでいく次代を担う子供の姿を、ほほえましく、やわらかいタッチでシンプルに描きました。同時に、「日の丸」を少し自慢げに抱く姿は、ニッポンの食(=国産)を「誇る」姿を表現しています。

国民運動基本メッセージ

子供たちの子供たちも、
その、ずーっと先の子供たちも
食べていけますように。

この想いを、誰にでもわかりやすく伝えることが重要であると考えました。

食の未来は、ニッポンの未来。
そのために“おいしいニッポンを”選択して、
使う、食べることで、その料理や素材、食文化や、
そのおいしくて、顔が見える安心が、
未来に引き継がれていきます。

“おいしいニッポンを”残す、創る。そんな想いをこめています。

「安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動」に込められた思い

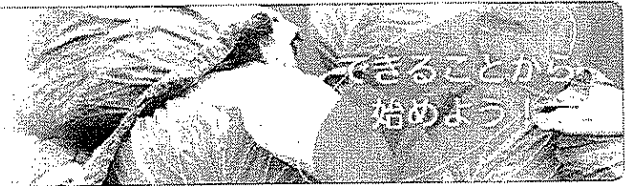


ログイン | サイトマップ | お問い合わせ | リンク集 | 文字サイズ 小 中 大



公式サイトトップ FOOD ACTION NIPPONについて 5つのアクション

食料自給率を上げていくためには、
国はもちろん、
みんなが力を合わせる必要があります。



食料自給率向上のための **5**つのアクション！

1 「いまが旬」の食べものを選びましょう

「旬」の農産物は、もっとも適した時期に無理なく作られるので、余分な手間や燃料などを必要としません。
味もよく、栄養もたっぷり、体にも環境にもやさしい食事が実現できます。

旬のどちそう情報！
「てくせんSPサイト」

2 地元でとれる食材を日々の食事に活かしましょう

私たちが住んでいる土地には、その風土や環境に適した農産物が育ちます。身近でとれた農産物は新鮮です。
一人一人が地元でとれる食材を選ぶことが、地域の農業を応援することになります。
(地元農業の応援はもちろん国産農産物の応援になります！)

旬の食材がひと目で分かる
「旬感マップ」(てくせんSPサイト)

3 ごはんを中心に、野菜をたっぷり使ったバランスのよい食事を心がけましょう

油のとりすぎは様々な生活習慣病を引き起こす原因にもなっています。
ごはんを中心に、野菜をたっぷり使ったバランスのよい食事を心がけましょう。



4 食べ残しを減らしましょう

開発途上国で飢餓が問題となっている中、日本では食料を大量に輸入して大量に捨てています。
この現状を踏まえ、家庭においても、食品の無駄な廃棄、食べ残しを減らしましょう。
(食料の無駄を減らすことは、食料輸入を少なくすることにもつながります。)

もったいない！食品ロスについて考えてみませんか？

5 自給率向上を図るさまざまな取組みを知り、試し、応援しましょう

米粉を使ったパン・麺などの新しいメニュー、国産飼料を使った牛や豚、鶏などの肥育、地産地消地域ブランド、直接契約による生産などのさまざまな試みを知り、試しに味わってみるなど、応援しましょう。

食料自給率向上の取組みや食材を知る！試す！

ごはんがおいしくなる、MeGu-Maga 配信中！
あなたのアクションが、未来へつながります

メルマガお申し込み

「わたしのアクション」宣言大募集!!
食料自給率アップにつなげるアイデアをご応募ください。

詳細はこちら

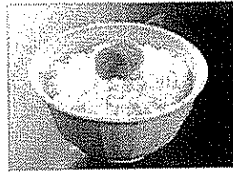


ログイン | サイトマップ | お問い合わせ | リンク集 | 文字サイズ 小 中 大



公式サイトトップ | FOOD ACTION NIPPONについて | 食料自給率年表

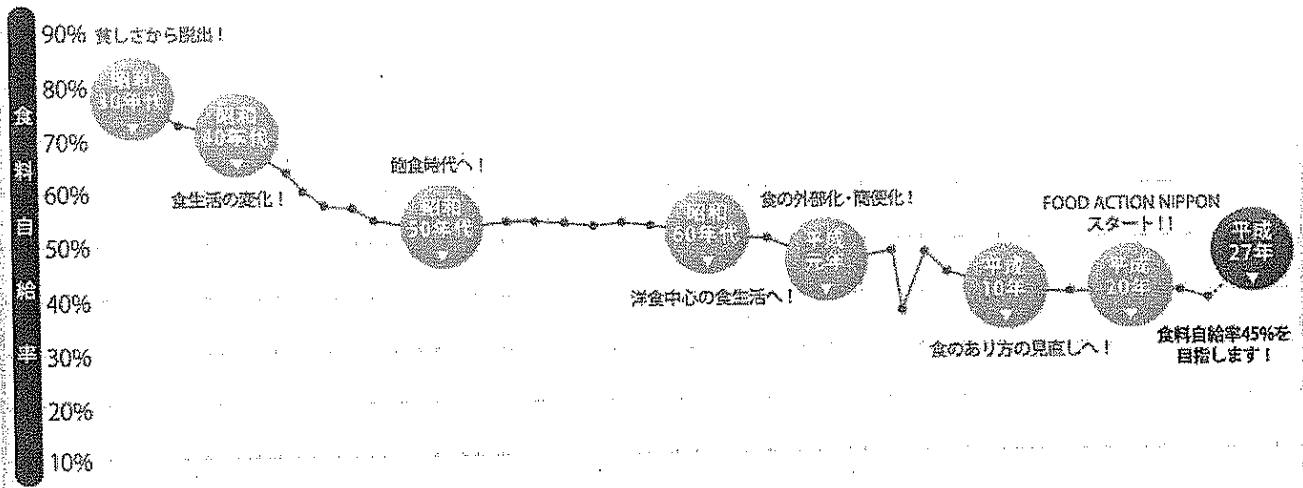
食料自給率年表



現在の日本の食料自給率はカロリーベースで41%。

食料を安心しておいしく食べられる社会を守らなければなりません。

長い間、美しい自然と大勢の人の手によって育まれてきた”おいしいニッポンを”残す、創るために、食料自給率の向上は、達成させなくてはならない課題のひとつです。



昭和30年代

貧しさから脱出!

戦後の貧しさから脱し、伝統的に主食であるご飯を中心に、魚、野菜、豆腐や納豆などが食卓に戻ってくるようになった。

また、炊飯器・冷蔵庫などの電化製品も登場し、日常生活が変わると共に食生活にも変化が見え始めた。



昭和30年代の食卓風景

三種の神器

電気洗濯機(約4万円)、電気冷蔵庫(約9万円)、テレビ(約13万円)が憧れの的となる。当時の平均月収は約3万円。テレビを持つ家に多くの人が集まった。

即席ラーメン

昭和33年、日清食品から「チキンラーメン」が発売。1袋85g入り・35円。珍しさがウケて爆発的人気となる。

米の大豊作!

米の生産が大豊作となり、史上最高の1239万トンに達した。米不足時代が終わりを告げる。

昭和40年代

食生活の変化!

ファストフードやファミリーレストランなど、外食産業が次々に登場し、人気を集める。

また、レトルト食品や冷凍食品などが店頭に並ぶなど、時代に変化が見られ、食材の輸入化、食生活の洋食化が進んだ。

📍 日本万国博覧会開催!

「人類の進歩と調和」をテーマに、日本を含む77カ国と4つの国際機関が参加。

総入場者数は、約6400万人と万博史上最多記録を更新。万博史上初めて黒字となった。

📍 マクドナルド1号店オープン!

昭和46年7月20日、東京・銀座三越の1階に「マクドナルド1号店」がオープン。1万人もの客が詰めかけ、1個80円のハンバーガーを立ち食いする人でごった返した。

📍 米余り現象!

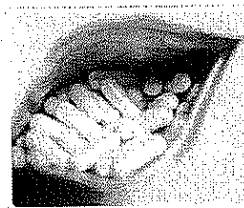
パン食の普及などにより、米の消費が減少。米が余るようになっていった。

昭和50年代

飽食時代へ!

お金さえあれば、食べ物が自由に手に入る時代へ。

世界中から食料が日本へ入ってくるようになり、食卓の主役は和食から洋食に。また、同時に食生活の乱れが叫ばれ始め、栄養バランス向上のためにサプリメントをとるというあり方が生まれた。



📍 王貞治選手756号ホームランで世界記録

王選手がアメリカ大リーグのハンク・アーロンのもつ世界記録を更新。その後、国民栄誉賞第1号として表彰される。

📍 持ち帰り弁当チェーンが急成長

独身女性の社会進出や、パートなど主婦も仕事を持つようになったこともあり、「早い、安い、温かい」の持ち帰り弁当が「ほっかほっか亭」を草分けに、ブームになった。

📍 ディスコブーム!

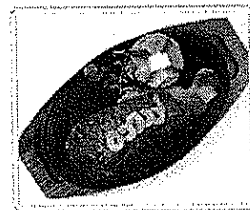
「サタデー・ナイト・フィーバー」日本上陸で、日本中でディスコフィーバーが起こる。全国各地にディスコが誕生し、「フィーバー」という流行語も生まれた。

昭和60年代

洋食中心の食生活へ!

時代はバブルに突入。日本の生活はますます豊かになり、子供の好きな料理は肉やカレーなどの料理が上位を占めるようになる。

牛肉の輸入も自由化されるなど、食に関して海外への依存が高まり、日本の食料自給率は40%台になった。



📍 バブル景気

1986年12月から1991年5月までの4年3ヶ月間を指す空前の好景気のこと。地価や株価がどんどん上昇し、多くの投資家が「土壤神話」「株長者」などを満喫した。

📍 金箔入り食品ブーム!

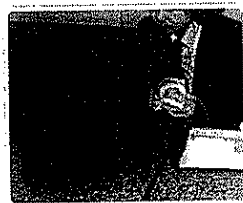
📍 外食市場規模が11兆円を越す

平成元年

食の外部化・簡便化!

日本の食生活が豊かになる一方で、食の外食化や調理されたものを買ってきて食べる「中食」で食事を済

ませる人が目立ち始める。
また、不規則な食事が増え、肥満や糖尿病が若い世代にも及ぶようになった。



📍 もつ鍋ブーム!

地元のタウン誌などでもつ鍋が紹介されると女性客が急増、専門店がぞくぞくと登場した。ヘルシーさと価格の手ごろさが受け、東京・銀座のもつ鍋専門店では2週間先まで予約で一杯という異常現象となった。

📍 平成コメ騒動!

1993年産米が大凶作となり、1994年になると2~3月をピークに米不足問題が勃発。タイ米など、海外から米を緊急輸入したが不評で、国産米を求めて米屋やスーパーの店頭などに長蛇の列ができた。

📍 外食市場規模22兆円台に

平成10年

食のあり方の見直しへ!

「食育」という言葉が広く使われるようになり、今私たちが食べているものについてももう一度見つめなおそうという動きが活発に。

📍 米国BSE問題!

牛丼チェーン、焼肉チェーンが原材料高騰により苦しむ。

📍 原油高!

世界的な原油高により、穀物価格が高騰。あらゆる食材が値上げされる。「お金を出せば、食べ物を買える時代は終わった」と叫ばれ始める。

📍 外食市場規模27兆円台に

平成20年

FOOD ACTION NIPPON スタート!!

FOOD ACTION NIPPON
食料自給率をアップさせ、
米や野菜を中心とした
ACTIONこそ、日本の食料自給率をアップさせる原動力となるのです。



ごはんがおいしくなる、Megu-Mega 配信中!

あなたのアクションが、未来へつながります

メルマガお申し込み ▶

ページの先頭に戻る

平成27年

子供たちの子供たちも、その、ずーっと先の子供たちも
食べていけますように。



ごはんがおいしくなる、Megu-Mega 配信中!

あなたのアクションが、未来へつながります

メルマガお申し込み ▶

ページの先頭に戻る


[ログイン](#) | [サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#) | [リンク集](#) | [文字サイズ](#) 小 中 大

[公式サイトトップ](#) | [ニュース & 活動 | イベント情報](#)
[ロックの学園2010](#)

開催日 2010年3月20日(土)～2010年3月22日(祝・月)

SCHEDULE

[2010年3月](#)
[2010年2月](#)
[過去の](#)
[イベント情報](#)

イベント情報

[2010年3月20日](#)
[前へ](#)

ロックの学園2010

開催日 2010年3月20日(土)～2010年3月22日(祝・月)

FOOD ACTION NIPPONが、「ロックの学園」にブースを出展いたします。今回のブースでは、米粉倶楽部を紹介するとともに、「わたしのアクション」宣言を募集いたします。

「ロックの学園」は神奈川県三浦市の廃校で繰り広げられる、まるで学園祭のようなロックフェス。ロックに育ててもらった大人たちが「ロックの先生」となり、白熱のライブや、個性溢れるワークショップなど、魅力的な「ロックの授業」を通して、ロックの素晴らしさ、そして「ロックの魂」を次世代に伝えていきます。2010年3月、第三回となる「ロックの学園2010」も、三浦市との共同主催により、三浦市民との交流を深め、地域活性化を推進していきます。

～ロックの学園2010～

校訓: 愛し合ってるかい?

会期: 2010年3月20日(土)～22日(祝・月) 10時～18時

会場: 三崎ロック学園(旧神奈川県立三崎高校)

京急品川駅より快特で65分、終点・三崎口下車 入園料: 無料 ※「体育館ライブ」のみ有料

主催: ロックの学園製作委員会(NHKエンタープライズ、ジャパンエフエムネットワーク、NTTがらら)、三浦市

協力: FOOD ACTION NIPPON推進本部

[詳細\(ロックの学園のサイト\)をご覧ください](#)
[前へ](#)
[ページの先頭に戻る](#)



[公式サイトトップ](#) | [ニュース & 活動](#) | [推進パートナーの取り組み](#) | [三浦市が、「三崎まぐる鉄火巻寿司づくり大会」を開催します](#)

ARCHIVES

- [2010年4月](#)
- [2010年3月](#)
- [2010年2月](#)
- [2010年1月](#)
- [2009年](#)
- [2008年](#)

推進パートナーの取り組み

2010年4月09日

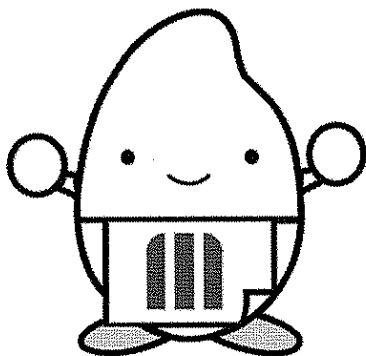
[前へ](#) [次へ](#)

三浦市が、「三崎まぐる鉄火巻寿司づくり大会」を開催します

五穀豊穡に感謝する「食の神フェスティバル」の関連イベントとして、三浦市の特産品である「まぐる」のPR及び三崎下町商店街の活性化を図るイベントです。

今年で5回目を迎える「三崎まぐる鉄火巻寿司づくり大会」は、日本一長い鉄火巻(530m)を巻き上げる参加体験型のイベントです。巻き上げられた鉄火巻は、その場で参加者及びギャラリーに振舞われ、三崎の特産品「まぐる」をご堪能いただけます。今回、この大会に使用するお米を推進パートナーの株式会社ミツハシ様よりご提供いただいております。

- 日程:平成22年4月25日(日) 15:00~
- 主催:三崎まぐる鉄火巻実行委員会
- 共催:三浦市、(協)三浦市商店街連合会、三浦商工会議所、(社)三浦市観光協会、三崎朝市(協)、(株)三浦海産公社
- 協賛:株式会社ミツハシ、三崎水産物(協)、三崎魚類(株)、三浦市超低温冷蔵(株)、日本鯨鮓魚市場(株)、三崎鮮魚卸小売(協)、(協)三崎まぐる加工センター、三浦市金融懇話会
- 協力:FOOD ACTION NIPPON推進本部、みうら観光ボランティアガイド協会、三浦観光情報発信協議会(三浦市、(社)三浦市観光協会、京浜急行電鉄(株))、三浦建設業組合



ミツハシくん®

[詳細\(三浦市のサイト\)をご覧ください。](#)

[前へ](#) [次へ](#)
[ページの先頭に戻る](#)